

SCHEDULE 7→9月

展示スケジュール

Wow!を感じる出会いは、ここから。

2022	7月	8月	9月	こちらもチェック!
大阪市立自然史博物館 大阪市東住吉区長居公園1-23 TEL:06-6697-6221 開館時間:9:30~17:00 11月~2月は16:30まで (入館は閉館の30分前まで) 休館日:月曜(祝日・休日の場合は翌平日、ただし8/1,8,15は開館)、年末年始	特別展 「大地のハンター展」 「陸の上にも4億年」 7/16~9/25 陸が上がって4億年のうちに多様化したハンター(捕食者)。多彩な標本展示でその起源と進化を解き明かします。  デイノスクス生体復元モデル	テーマ展示 「標本を未来に引き継ぐ」 新収資料展2022 主に2019年以降に収集された標本を展示し、その標本の意義と博物館での資料収集活動について紹介します。  大阪湾で漁獲されたイタチザメ	Webサイト  YouTubeもあるよ 	
大阪市立科学館 大阪市北区中之島4-2-1 TEL:06-6444-5656 開館時間:9:30~17:00 (展示場入場は16:30まで、プラネタリウム最終投影は16:00から) 休館日:月曜(7/18,8/15,9/19は開館)、7/19,9/20,メンテナンス休館、年末年始	140周年記念 「気象の科学展」 「天気予報ができるまで」 大阪管区気象台 気象測器の変遷とともに、気象観測方法の原理と天気予報の中にある科学を紹介します。 アネロイド型自記気圧計 ~9/4	サイエンスショー 「花火の化学」 ~8/28 花火はなぜよく燃えるの?きれいな色が出るの?夏にぴったり、花火の化学をお楽しみください。 「天の川クルーズ」 「流星群の正体に迫る」 プラネタリウム 天の川の見どころを巡る「天の川クルーズ」、地球と流れ星の関係を探る「星の降る夜に」。2つのプログラムで夏の星空をご案内します。	「宇宙美術館2022」 プラネタリウム 最新の観測機器がとらえた、まるで芸術品のような美しい宇宙のすがたを紹介します。  Webサイト  各種SNS更新中 	
大阪歴史博物館 大阪市中央区大手前4-1-32 TEL:06-6946-5728 開館時間:9:30~17:00 (入館は閉館の30分前まで) 休館日:火曜(祝日・休日の場合は翌平日)、年末年始	特集展示 「戦争と福祉・ボランティア」 「田中半治郎の遺品から」 人が福祉やボランティアに関わるきっかけとは何か。戦争体験がそうしたきっかけの一つとなることを示します。 ~9/5 特別企画展 「和菓子、いとおかし」 「大阪と菓子のこれまでと今」 和菓子の成り立ちや作り方、美しさがわかる資料から、大阪における和菓子文化の魅力を見つめなおします。 『浪華家都東』習志齋竹窓編 天保7(1836)年 大阪歴史博物館蔵 	「開館記念展」 「みんなのまち 大阪の肖像」 「第2期」 日本で14年ぶりの回顧展。選りすぐりのモディリアーニ作品を同時代の多彩な美術とともに紹介します。 アメデオ・モディリアーニ(座る裸婦) 1917年 アントワープ王立美術館蔵 photo: Rik Klein Gotink, Collection KMSKA - Flemish Community (CC0)	「展覧会」 岡本太郎 7/23~10/2 芸術家・岡本太郎の人生を振り返る大回顧展。代表作に加え晩年の作品なども紹介しながらその生涯をたどります。 ©岡本太郎記念現代芸術振興財団 Webサイト  Twitterもあるよ 	
大阪中之島美術館 大阪市北区中之島4-3-1 TEL:06-6479-0550 開館時間:10:00~17:00 ※「展覧会 岡本太郎」、「みんなのまち 大阪の肖像」[第2期]は10:00~18:00 (展覧会会場への入場は閉館の30分前まで) 休館日:月曜(7/18,9/19は開館)、7/19~22,年末年始	「開館記念特別展」 「モディリアーニ」 「愛と創作に捧げた35年」 ~7/18	「開館記念展」 「みんなのまち 大阪の肖像」 「第2期」 戦後の大阪の発展と変貌を、絵画、ポスター、家電、実物大工業化住宅など作品・資料約300点により展覧します。 早川良雄(第11回秋の秀彩会) 1953年 大阪中之島美術館蔵	Webサイト  Instagramやってます 	
大阪市立美術館 大阪市天王寺区茶臼山町1-82 (天王寺公園内) TEL:06-6771-4874 開館時間:9:30~17:00 ※9/3,10,17,23,24は9:30~19:00 (入館は閉館の30分前まで) 休館日:月曜(7/18,8/15,9/19は開館)、7/19,展示替期間(~7/15),年末年始	特別展 「ドレスデン国立古典絵画館所蔵 フェルメールと17世紀オランダ絵画展」 7/16~9/25 初期の傑作《窓辺で手紙を読む女》を修復後、所蔵館以外で世界初公開!! ヨハネス・フェルメール 《窓辺で手紙を読む女》(修復後) 1657-59年頃 ドレスデン国立古典絵画館蔵 © Gemäldegalerie Alte Meister, Staatliche Kunstsammlungen Dresden, Photo by Wolfgang Kreishe	「展覧会」 岡本太郎 7/23~10/2 芸術家・岡本太郎の人生を振り返る大回顧展。代表作に加え晩年の作品なども紹介しながらその生涯をたどります。 ©岡本太郎記念現代芸術振興財団	Webサイト  マニア垂涎 オフィシャル ショップ 	
大阪市立東洋陶磁美術館 大阪市北区中之島1-1-26 (中央公会堂東側) TEL:06-6223-0055	改修工事のため2023年秋まで休館(予定)		Webサイト  Instagramやってます 	

OSAKA MUSEUMS

見て、感じて、開け好奇心。

VOL. 21
2022.6→9
TAKE FREE

Wow!

ようこそ!
Wow!を感じる
ミュージアムへ。

OSAKA MUSEUMS

「OSAKA MUSEUMS」vol.21 2022年6月28日発行
 発行/地方独立行政法人 大阪市博物館機構
 〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32 大阪歴史博物館内/TEL:06-6940-4330(代表)
 表紙は、大阪市立科学館 展示場4階の《太陽》▶▶▶詳しくは4ページへ

次号vol.22は、2022年9月発行予定です

驚いたり、ときめいたり、ミュージアムでいろいろなWow!を。

国内外の希少な作品に精密な立体模型、圧倒的なスケールなどミュージアムにあふれるさまざまなWow!を特集。ぜひ目の前で鑑賞して、Wow!という驚きの体験をお楽しみください。

大迫力にWow!

まるで滑り台!?
約3メートルの
牙を全方位から堪能。

現代のアフリカゾウとほぼ同じ。大きな違いは3mにも伸びる牙で、まるで滑り台のようにも見えます。長い牙と長い鼻を両立させていたコウガゾウは、牙をまたいで鼻を横に垂らしていたのではないかと考えられており、この牙をオス同士の戦いやメスへの強さのアピールに生かしていたと推察されています。

コウガゾウのもう一つの特徴は、口元に覗く歯。現代のゾウは植物をすり潰して消化しやすい平らな歯をしていますが、コウガゾウはギザギザの歯で、進化する前の原始的なかたちをしています。とはいえ肉食だったわけではなく現代のゾウと同じ草食で、頭骨の形状から腫は小さくつぶら。250万年も昔にこのような長い牙と鼻をもつゾウが群れをなし、つぶらな腫で野原を歩いていた姿を想像すると、壮大でどこか愛らしいWow!な世界が広がります。

頭骨(レプリカ)
〈コウガゾウ(黄河象)〉
大阪市立自然史博物館

展示室の天井近くから真っ直ぐ伸びる大きな牙にWow!これは中国甘粛省で発掘されたコウガゾウの化石の頭骨(レプリカ)です。約250万年前に生息していたコウガゾウは、肩までの高さが3.81m、全長7mと



土製品の見学は9/20(火)まで事前電話予約にて詳しくは7ページへ▶▶▶

大阪中之島蔵屋敷跡出土の〈ミニチュア土製品〉

大阪市文化財協会

わずか4センチの高さの仏像や壺、動物たち。ぐっと覗き込むと丁寧に描き込まれた模様や表情の豊かさにWow!と驚き、その精巧さにじっくりと見入ってしまいます。これらは大阪中之島美術館の建設前の発掘調査で見つかった土人形などのミニチュア土製品。18世紀後半から19世紀にかけてのおよそ2,000点が発見されました。江戸時代、大阪堂島には米市場が開設され、中之島には諸藩の蔵屋敷が建ち並んでいました。中之島美術館の地には広島藩蔵屋敷があり、広島藩の人々がお土産や自分のコレクションとして土人形などを集めて楽しんだことがわかります。これらの土製品が教えてくれるのは当時の風習や流行だけでなく、建造物のかたちも。建造物の遺跡は土台だけが見つかることが多いため、建造物の全体像がわかる出土品は構造を知る

精巧さにWow!

お土産に、自分のコレクションに。今と変わらない江戸時代の楽しみ。

非常に重要な資料になっています。この多様な種類から、職人たちがこぞって技を磨き、流行のアイテムを大量に作り、庶民が買い集めていた風俗が浮かび上がってきます。暮らしぶりや趣味性など、わずか数センチの世界に江戸時代の人たちの日々を楽しむWow!が詰まっています。

絵画 アメデオ・モディリアーニ〈髪をほどいた横たわる裸婦〉

大阪中之島美術館

幼い頃から病弱だったモディリアーニは、療養を兼ねた旅先で美術館や教会をめぐり、感性を磨きました。裸体画教室や美術学校で基礎を身につけ、21歳でパリへ。絵が売れず貧しい日々が続きますが、24歳のときにある彫刻家と出会い、影響を受けることになります。約5年、彫刻を制作し、その後、絵画に回帰。絵画に彫刻の造形性を取り入れたことで、細長い顔や鼻、腫のない神秘的な目といった表現様式が生まれ、晩年には裸婦像という西洋美術の伝統的テーマに向き合い、その独創性を確立していきました。

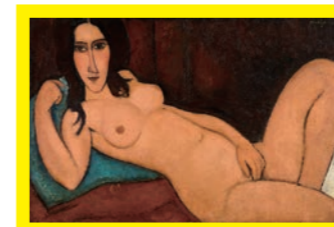
7月18日まで開催中の展覧会では彼の生涯を追うように作品が並び、作風の変化を感じることができます。最終章に展示されるのは代表作である裸婦で、

独創性にWow!

彫刻のような造形の中に人物の魅力表現する技量と美意識。

中でも注目は並べて展示される〈髪をほどいた横たわる裸婦〉と〈座る裸婦〉*。2作は同じモデルとされながら、制作意図は大きく異なります。前者は脚や頭を切った大胆な構図。後者は複雑なポーズによって体のボリューム感を表現。構図、女性の視線、背景や筆遣いなどのさまざまな相違に共通するのは、伝統の中に人物の本質を描き出そうとする、画家モディリアーニのWow!な熱量です。

*アントワープ王立美術館蔵



《髪をほどいた横たわる裸婦》1917年 大阪中之島美術館蔵

開館記念特別展
モディリアーニ
—愛と創作に
捧げた35年—
7/18(月・祝)
まで開催中



ようこそ! Wow!を感じるミュージアムへ。

復元模型
〈船場の町並み〉

大阪歴史博物館

9階の中央部分に位置する復元模型では、安政年間(1854~1860)の船場北部の春の情景を1/20スケールで再現しています。「天下の台所」と呼ばれたこの時代の船場は両替商や商家が立ち並び、隆盛を誇っていました。町並みを覗き込むと、当時人気を博した菓子屋の前で商人と町人の活気に満ちた様子が見られ、立ち並ぶ商店の軒先には昆布、乾物までしっかりと再現。建物の造りや外壁の色はもちろん、衣服の柄や着付け方、手にするカゴの寸法に至るまでのリアルさは学芸員の緻密な風俗考証によるもの。これら模型はあらゆる資料をもとに、緻密なミニチュアとして再現しています。また、場面については、当時の風俗などを参考に学芸員たちが構成。例えば、脚を大きく広げた修験者の股をくぐるのは疱瘡(ほうそう)除けのまじないです。☑

現代との
共通性に
Wow!

船場に生きる
約300の
人形が織りなす、
ありのままの暮らし。

☑その他、ネズミのそばには猫の姿を配すほどの徹底ぶりです。笑っていたり、急いでいたり、ひそひそと内緒話をしていたり。約300体の人形が織りなす営みに、私たちの暮らしと大きく変わらないというWow!な感覚が次第と湧き上がってきます。



人気の菓子屋、虎屋伊織。

疱瘡除けの股くぐり。

着飾って出かけるごりよんさん一行。

なぜか街中に猿の姿も。

天秤棒で子どもをあやす八百屋。



プロジェクションマッピング
〈太陽〉

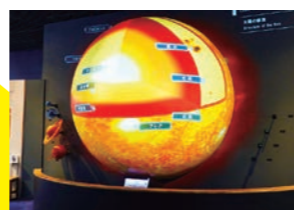
大阪市立科学館

エレベーターで展示場の最上階である4階に上がり、扉が開くと正面に現れるのはオレンジ色の大きな球体。ここが大阪市立科学館の展示見学のスタートです。大きさと鮮やかさに思わずWow!とこぼれるこの太陽。めらめらと燃えるオレンジ色から内部構造の解説へと映像が変化し、周辺には同じスケールの太陽系惑星が配置されています。太陽と比較すると地球の直径はほんの数センチで、およ

大きさに
Wow!

こんなに大きい。こんなに熱い。
地球に不可欠な太陽の
まだ解明されない素顔。

なんと!
地球は
このサイズ



可愛さに
Wow!

猫かと思えば虎!?
吉祥を運ぶ
虎と鶴の
ユーモラスな描写。



壺〈青花虎鶴文〉

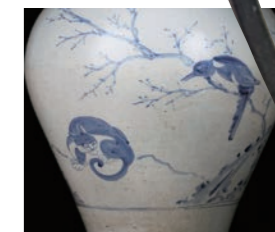
大阪市立東洋陶磁美術館

朝鮮時代(1392~1910)には多種多様な陶磁器が作られ、長い歴史の中で時代ごとに変貌を遂げていきます。白磁の上に青花の顔料であるコバルトで模様や絵を描き、透明釉をかけた白磁青花が現れたのは15世紀頃。17世紀はコバルト不足の影響を受けて鉄絵具を用いて文様を描く鉄砂が主流になりました。18世紀半ばには王家や官庁の器を焼く窯「官窯(かんよう)」が広州に移転した

ことを機に安定した生産が可能となり、さまざまな陶磁器が誕生。その盛んな生産体制によって朝鮮独自の美学が開花していきました。

18世紀後半につくられたこの白磁青花は、何よりもユーモラスな虎の描写にWow!と目を奪われる作品。正面の岩上を徘徊する姿、裏面の丸くうずまり、枯木に止まる鶴を見上げる姿は虎というよりまるで猫のよう。この頃の朝鮮では虎は尊い霊獣として崇められ、吉報を知らせる鶴と一緒に描くことで、おめでたい兆しを表現しています。この壺をじっくりと鑑賞していると、ニヤリと微笑む虎がハッピーなWow!を呼び込んでくれる、そんな想像が広がります。

青花 虎鶴文 壺
大阪市立東洋陶磁美術館
(住友グループ寄贈/安宅コレクション)
写真:六田知弘



青花 虎鶴文 壺(裏面)
写真:六田知弘

名作・名品の
ウラ側を
探る!



推しの真相



ヨハネス・フェルメール《窓辺で手紙を読む女》(修復後)1657-59年頃 ドレスデン国立古典絵画館 © Gemäldegalerie Alte Meister, Staatliche Kunstsammlungen Dresden, Photo by Wolfgang Kreischa

ヨハネス・フェルメール《窓辺で手紙を読む女》

女性の背景にはキューピッドが描かれていたと話題のフェルメール作品が大阪市立美術館で公開されます。この作品の経緯について大阪市立美術館名誉館長 篠 雅廣さんにお話を伺いました。

謎めいた作品のメッセージに ヒントを与える“キューピッド”の画中画。

『フェルメールの作品は35点ほどしか残っておらず、その内容も謎めいていることが特徴です。この《窓辺で手紙を読む女》の背景の壁に、キューピッドが仮面を踏みつけている画中画が隠されていることがX線調査によってわかったのは1979年。当時はフェルメール本人が塗りつぶしたと考えられていましたが、2017年の科学的調査によってその認識が覆りました。絵の具は5層に分かれており、キューピッドの層と上塗りした層の時期が異なることから、壁を塗りつぶしたのはフェルメールではないと確認されたのです。誰がなぜ上塗りをしたのかは諸説ありますが、キューピッドの登場によって、女性が読んでいる手紙の意味が明確になりました。虚飾の象徴である仮面を踏みつけるキューピッドは愛の使者です。この手紙はきっと彼女に幸せをもたらすものなのでしょう。今回の展覧会はフェルメール本来の構想と色彩を鑑賞できる貴重な機会です。展示室では、修復前の複製画と比較しながら、作者の想いを感じ取ってください。』

特別展の詳細は8ページへ▶▶▶

まだある！
ユニークで何か気になる
ミュージアムの
推しなコト。

大阪市立美術館



ミュージアムのお推しごと



これはレア!

COLLECTORS EYE



モキュロピッド

推したくなる!

ライバル塾の
生徒をひと睨み。
福沢諭吉青年の
熱いまなざし。

福沢諭吉



大阪歴史博物館

「船場の町並み復元模型」をじっくり観察すると、鋭い視線で腕組みする青年の姿が。実はこの人、若き日の福沢諭吉です。20歳頃の諭吉青年は緒方洪庵が開いた「適塾(てきじゅく)」で学んでおり、対立する塾の生徒とすれ違ふと、こうしてジロリと牽制し合っていたのかもしれない。1万円札に描かれる円熟した印象とは異なる雄々しい表情にキュン!

木目のようで、
実はアブラゼミの翅。
シュシュで虫好きを
さりげなくアピール。



セミシュシュ 630円(税込)

大阪市立自然史博物館

髪飾りのシュシュのデザインは一般的に無地や花柄などが多いですが、大阪市立自然史博物館で販売しているシュシュはなんとアブラゼミの翅(はね)がモチーフ。その理由はセミを愛する学芸員スタッフの「昆虫の体の色、模様的美しさに目を向けてほしい」という思いから。本物のアブラゼミの翅をデジタルデータに起こして精密なデザインに仕上げたそうです。パッと見ただけではセミの翅とは気づかない、虫好きをさりげなくアピールできるユニークなアイテムです。

いろんな角度で見てほしい。
約7mもの高さの子どもの守り神。

《ジャイアント・トラヤン》

大阪出身の現代美術家・ヤノベケンジさんによるこの作品は、子どもの守護神として制作された約7mものロボット型の巨大彫刻。4階のパッサージュに展示しているので、《ジャイアント・トラヤン》の大きさを感じたいなら階段下から、顔を正面から見るなら階段の踊り場からの鑑賞がおすすめです。いろんな角度から《ジャイアント・トラヤン》の姿を見つけてください。



©Kenji Yanobe
Photo: KENJI YANOBE Archive Project

大阪中之島美術館

映えなView

オタクキュー

知りたい気持ちに
学芸員がお答え!



どうしてこんなに
カラフルでキレイ?
不思議な花火の仕組み。

Q 花火の材料って
なんですか?(10代)

A 花火の火薬には、よく燃えるものや酸素を出すもの、きれいな色を出すものなどさまざまな材料が使われています。打ち上げ花火は、発色剤となる金属が含まれている「星(ほし)」と、花火玉を爆発させて「星」を吹き飛ばす動きをする「割薬(わりやく)」と呼ばれる2種類の火薬からできています。

回答担当:
大阪市立科学館
宮丸 晶さん(学芸スタッフ)

大阪市立科学館

~8/28(日)サイエンスショー「花火の化学」開催中!
花火の仕組みを知るには、ぜひサイエンスショーへ。

炭、硫黄、硝酸カルウムなど、実際の花火に使われる材料で手持ち花火を作って実験します。ぜひご覧ください。詳しくはこちら <https://www.sci-museum.jp/scienceshow/>



エントランスが
増築されて
イメージが一新!
楽しみに
お待ちしております

大阪市立東洋陶磁美術館

多忙な中でもホッと落ちつく
アートがそばにある環境。

『美術館に着任して約1年半。美術館での仕事はゆったりとしたものと想像していましたが毎日忙しく、落ち着けるのは開館前の展示室にいるときくらい。それでもアートを身近に感じられるのは大きな魅力ですね。現在、リニューアルオープンに向けて検討事項が多く、こだわりもあるため時間がかかりますが、少しずつ形になることがうれしいです。』

※本誌掲載用に撮影時のみマスクを外しています。

総務課 係長 山下健さん

みんなで作り上げている ミュージアムのお仕事

▶▶▶3ページの〈ミニチュア土製品〉の一部を展示中(〜9/20(火)まで)

大阪市文化財協会



〒540-0006
大阪市中央区法円坂1-6-41
開館時間/9:00~17:00
休館日/土曜・日曜・祝日、
年末年始

見学は電話での事前予約をお願いします。
TEL:06-6943-6833

